

令和4年度 沼津情報・ビジネス専門学校

学校自己評価・関係者評価 評価報告書

(令和3年度評価)

1. 教育理念・教育方針 の確認

〈教育理念〉

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

〈教育方針〉

新しい沼情のミッション「地域社会に愛される技術者の育成」

- 「技術者の育成」と「地域社会への貢献」の両輪で教育を推進
- 「地域社会への貢献」というマインドセットを持った技術者を育成
- 学生は「地域社会へ貢献」するための「スキル」を習得目標
- 学生の「自律」を全面的に支援
- 学校自体が地域社会に対して積極的に貢献

2. 評価項目の達成及び取組状況 の確認

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

※自己評価の平均は、小数点第2位を四捨五入する。

(1) 教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4.0
1-2	学校における職業教育の特色が明確に示されているか	4.0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.9
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3.8
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.9
学校自己評価 平均		3.9

成果と課題

- ・教育理念並びに教育目標は、ホームページ学校概要に明示している。学生便覧に記載の教育理念については、入学時のオリエンテーションで担任より説明している。
- ・学生には直接周知している一方、保護者に向けた周知については、5月に開催予定の後援会総会がコロナ禍により中止となり、確認の必要がある。

今後の改善方策

- ・教育理念並びに教育目標を募集イベントの段階から学生・保護者等多くの方々に周知していく。
- ・教育課程編成委員会を通じて、社会ニーズを取り入れたカリキュラム改編を検討する。

学校関係者 評価コメント

- ・今後も、社会経済・業界のニーズに対して可能な限り対応してほしいと思います。
- ・教育理念や目標に向かって日々努力されていると思います。教員・学生にバックアップや周知が大切です。
- ・学校の規模が拡大している中でもしっかり伝えていることが結果にも現れていると思います。
- ・わかりやすく提示されていると思います。
- ・入学前のオリエンテーションで保護者に教育理念を周知してもらうことは大切です。

学校関係者評価平均

4.0

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	3.7
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.9
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.9
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.7
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.9
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.8
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.8
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.5
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.8
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	3.2
学校自己評価 平均		3.7

成果と課題

- ・年度当初に学生へシラバスを配布、科目の目的・内容・成績評価方法等説明をしている。
- ・学習時間や到達目標は、学生便覧によって明確になっている。
- ・教育課程編成委員会や実習巡回で得た意見を授業運営に反映している。
- ・スキルアップとして、一部でeラーニング教材やオンデマンド教材を導入している。
- ・前期末と後期末に学校アンケート、授業アンケートを実施、今後の授業運営に活かしている。
- ・人材育成目標に向けた授業を行うことができる講師は確保されているが、一人の教員が多岐の授業を担当するなど偏りが出ているところもある。
- ・指導力向上に関しては、非常勤講師に対し未だ不十分。
- ・習熟度に乏しい学生については学科毎に補習を行うなど対応しているがフォローが不十分。

<u>今後の改善方策</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上のために、非常勤講師も含めた全教員の研修の実現。 ・「学力多様化への対応」として、特に低学力層の底上げをはかる全校的な仕組みの構築。 	
<u>学校関係者 評価コメント</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ・2-12については評価が難しい細目です。熱意ある先生がいらっしゃるからこそ厳しい評価（いい加減ではない）と考えます。 ・専門学校の為、教員確保をする事は1番だと思いますが人材確保は大変です。 ・シラバスについては、配布を徹底するのであればその内容の精査も重要であると感じました。 ・目標に達成しない学生へのフォローは厳しめの評価をされているかと思いますが、努力されている姿勢が伝わってきました。 ・教員、講師をより充実させたい。 ・本屋がなくなっている状況で、書籍ではなくeラーニング、オンデマンド教材を使用している点は良いと思います。 	
学校関係者評価平均	3.7

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	3.8
3-2	資格取得率の向上が図られているか	3.2
3-3	退学率の低減が図られているか	3.0
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.3
学校自己評価 平均		3.3

<u>成果と課題</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関しては、個別指導を丁寧に行い、就職率100%を目指している。 ・退学率に関しては、令和2年度の5.8%から令和3年度は8.0%と増加した。留学生の退学が増加。 ・資格取得向上への施策は行っているが、特に下位者に対する指導が不十分。 ・卒業生については十分に情報が把握できていない。 		
<u>今後の改善方策</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・進路変更や学習意欲低下による退学者を減らすため入学前から丁寧な説明を行い、ミスマッチを防ぐ。 ・退学率抑制のため、出席不良者の早期対応と改善に向けた仕組みを構築する。 		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得については、専門学校なのでこだわってほしいと思います。 ・留年、退学どこも問題が多いです ・基本情報などの資格について、難しい状況がよくわかりました。解決に向けて取り組まれていることもわかりました。 ・現在のような経済状況で高い就職率は素晴らしいです。 ・卒業生の離職率と離職理由を把握すべきです。学生だけではなく就職先会社にも問題はあります。 		
学校関係者評価平均		3.6

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.9
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.8
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.7
4-5	保護者と適切に連携しているか	3.8
4-6	卒業生への支援体制はあるか	3.3
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.9
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	3.9
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.8
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.6
学校自己評価 平均		3.8
<p><u>成果と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の進路指導に関しては、就職担当を中心に全教職員で指導に当たった結果、令和3年度は、就職内定率は99.5%、専門分野内定率は76.1%となった。 ・悩んでいる学生・不安に感じている学生に対して、メンタルヘルスに関しては学校カウンセラーによるカウンセリングを週1回（予約制）実施している。 ・学生の経済的側面に対する支援体制では、日本学生支援機構奨学金と法人独自の学費サポートプランにより整備されている。また、高等教育の修学支援金制度対象校となっている。 ・職員室内に保健室があり、ベッドが2つ用意されているが、利用しづらいとの意見がある。 ・成績や出席が悪い学生については、担任から保護者に電話連絡を行い、必要に応じて保護者面談を行うことで、学生の休学・退学を防止するよう活動している。 ・卒業生への支援体制は十分とは言えない。相談に来校する卒業生については、その都度対応している。 ・コロナ禍に対応しオンラインでの就職活動支援を増やしている。 ・コロナの影響で地域行事等の中止が相次ぎ、ボランティア活動を縮小せざるを得なかった。 ・社会人を対象とした講座などの教育プログラムは実施されていない。 		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会の活性化など、卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。 ・地域との連携強化の促進。地域貢献活動への積極参加。 ・社会人に向けた教育プログラムの開発に向けた調査・検討。 		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会の活性化など、卒業生との連携強化は絶対プラスに作用するはずなので、長期的なスパン大局的なスパンで検討されたい。 ・健康面も含めて幅広く対応されている体制はとてもよいと感じました。 ・能力差はあるでしょうが、退学を減らしたいですね。 ・メンタルヘルスに関しては重要だと思います。 		
学校関係者評価平均		3.7

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4.0
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	3.7
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	3.9
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.2
5-5	防災に対する体制は整備されているか	3.7
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.5
学校自己評価 平均		3.7
<u>成果と課題</u> <ul style="list-style-type: none">・普通教室はクラス担任、実習室には管理担当を置き、施設設備の管理体制は整っている。・コロナ感染予防のため、許可制とするなど学生の利用を一定程度抑制した。・実習機器は充実しているが、経年劣化や故障が出始めている。・学生の増加に伴い、教室数や面積に余裕がない。・研修旅行はコロナの影響によりすべて中止となったが、必要な学外研修やインターンシップ等は感染対策の上実施した。		
<u>今後の改善方策</u> <ul style="list-style-type: none">・学生の増加とコロナ対応を見据えた、教室・実習室の整備運営が必要。・今後、施設設備の経年劣化にともなうメンテナンスが必要。・学科により研修旅行の必要性について検討すべき。		
<u>学校関係者 評価コメント</u> <ul style="list-style-type: none">・多くの高校と比べれば、とても充実した環境のように感じられます。・コロナ及び教室数については仕方ない部分もあるかと思えます。実際には充実した環境が提供できていると感じました。・少し手狭になっているようですので、今後の課題だと思います。・研修旅行（修学旅行）は専門学校では必要ないと思えます。		
学校関係者評価平均		3.8

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4.0
6-2	募集要項の内容は適切か	4.0
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	3.9
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4.0
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	3.9
学校自己評価 平均		4.0
<u>成果と課題</u> <ul style="list-style-type: none">・入学案内・募集要項は、毎年更新され、志願者に必要な情報を適切に公開提供している。・募集活動は適正に行われている。教育成果については、学校説明会、オープンキャンパス、新聞、ホームページ等で資格取得状況、コンテスト入賞の状況、就職の状況などの情報を公表している。		

<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の見やすいコンテンツで学校情報やトピックを、さらにタイムリーに発信していく。 	
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集や広報に SNS を積極的に取り入れて欲しいと思います。(さらに充実し継続してほしい) ・タイムリーであることが重要と感じます ・変化に対応しながらの募集ができています。 ・ガイドブックなどとても充実していると思います。 	
学校関係者評価平均	3.9

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的を実施しているか	3.7
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	3.7
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	3.8
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	3.5
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
7-6	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.0
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	3.9
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	3.8
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3.9
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.9
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.7
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4.0
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4.0
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.9
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4.0
7-19	自己評価結果を公開しているか	4.0
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4.0
学校自己評価 平均		3.9

成果と課題

- ・教職員の人事制度については、法人で制度化されており、教職員の評価に関しては、目標管理制度が運用されている。説明やフィードバックが少なくわかりにくいという意見もある。
- ・学校間の連携は、所属長会議、校長ミーティング、分科会が中心となり活動している。
- ・非常時の危機管理については、法人全体での危機管理規程に規定されている他、ANPIC システムを使用して安否情報管理が行われている。
- ・コロナ禍により、クラス単位で避難経路の確認はしているが、防災訓練は縮小された。
- ・学校長より運営方針が示され、学校長の実施計画シートを基本として目的・目標を立てている。
- ・理事長の予算編成方針、中期計画に沿った運営方針に基づき事業計画を策定している。
- ・情報システムに関しては、学務、会計、人事等の基幹システムが法人全体で構築されており、情報セキュリティについては、情報セキュリティ基本方針に基づき管理・運用されている。
- ・法人本部のホームページで収支報告が公開されている。現在、財務基盤は安定している。
- ・次年度の事業計画を策定し、収支を勘案した予算が編成されており、法人内の予算ヒアリングを経て、理事会・評議員会の承認を得ており妥当である。
- ・会計監査については、法人に対して年1回、各所属に対して2年に1回実施している。監事監査については、年2回実施している。
- ・個人情報の取り扱いについては、学生便覧に明記されている。また、広報活動に用いられる写真、個人名等については、個別で承諾を取っている。
- ・毎年、自己評価委員会による自己点検・自己評価を行い、対応すべき事項などを共有化している。
- ・関係者評価委員会を5月下旬までに実施し、6月中にはホームページへの公開を行っている。
- ・学内にハラスメント委員会を設け学生、教職員からのハラスメント投稿BOXを設置し受けとれる仕組みを設け、防止を図っている。

今後の改善方策

- ・入学定員を超過している学科については、今後改善を目指す。
- ・学内における分掌や会議体、意思決定機能の再検討。
- ・個人情報に関する教職員の意識統一。
- ・総合防災訓練の実施。

学校関係者 評価コメント

- ・組織が大きくなる中で、体系的なシステムを構築されていると思います。
- ・ハラスメント投稿BOXは良いアイデアだと思います。

学校関係者評価平均

3.8

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	3.9
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	3.7
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.3
学校自己評価 平均		3.6

成果と課題

- ・令和3年度は、こいのぼりフェスティバル、子育てサロンなどの施設貸し出しやボランティア活動、公開講座や商店街との地域連携が、コロナの影響で縮小中止を余儀なくされた。
- ・高校生向け講座や地元小学校への教育支援を実施した。

今後の改善方策

- ・アフターコロナを見据えた新しい地域連携のかたちを模索する必要がある。

学校関係者 評価コメント

- ・コロナ禍など社会状況を見ながら、少しずつ出来る範囲で各種交流・貢献の活動をしていってほしい。
- ・コロナ禍とはいえ、交流を進めていると感じました。
- ・アフターコロナにおける地域連携にはさらに期待しています。
- ・コロナ禍で、しょうがなかったかと思います。
- ・地元へのアピールをもう少しするべきでは。

学校関係者評価平均

3.5

沼津情報・ビジネス専門学校 学校関係者評価委員会（令和3年度評価） 議事録

日 時	令和4年5月25日（水） 15時00分 ～ 16時45分		
場 所	沼津情報・ビジネス専門学校 5Fラウンジ	文 責	宮城島 進一
出 席 者	曾根 輝夫 ランアンドケントス株式会社 代表取締役 廣住 和良 株式会社ディスタンス・インターナショナル 代表取締役 加藤 正樹 静岡県立三島長陵高等学校 教諭 坂部 眞彦 沼津情報・ビジネス専門学校 校長 三上 慎太郎 沼津情報・ビジネス専門学校 教務課長 宮城島 進一 沼津情報・ビジネス専門学校 教務課長 (敬称略)		
欠 席 者 (書面による 意見提出)	高木 田鶴子 公益社団法人 沼津法人会 女性部会部会長 土井 宣博 株式会社 雅心苑 代表取締役社長 大澤 幸男 株式会社KTSオペレーション 沼津リバーサイドホテル 総務人事マネージャ 宇賀神 美代子 医療法人社団 真養会 田沢医院 看護局長 二橋 知愛 社会福祉法人 羊之舎恵愛会 恵愛保育園 園長 (敬称略)		
議 事			
1. 開会挨拶（坂部校長） 2. 委員紹介 3. 「学校関係者評価」の位置づけについて（三上教務課長） 配布資料にて説明 4. 評価方法及び評価報告書について（三上教務課長） ・評価していただく項目及び評価シート記入上の注意 ・今回の評価、意見を含めた上で、最終の評価報告書を作成することの説明 5. 令和3年度学校自己評価についての報告及び質疑（三上教務課長） 令和3年度自己評価報告を各項目について根拠となる資料及び関連資料を提示しながら報告及び説明を行う。 5-1 教育理念・教育目標の確認 新しい沼情のミッション「地域社会に愛される技術者の育成」 ■「技術者の育成」と「地域社会への貢献」の両輪で教育を推進 ■「地域社会への貢献」というマインドセットを持った技術者を育成 ■学生は「地域社会へ貢献」するための「スキル」を習得目標 ■学生の「自律」を全面的に支援 ■学校自体が地域社会に対して積極的に貢献			

5-2 各評価項目の達成および取り組み状況の自己評価報告（成果と課題、今後の改善方策）と質疑

（1）教育理念・目標

○成果と課題

- ①教育理念並びに教育目標は、ホームページ学校概要に明示している。学生便覧に記載してある教育理念については、入学後オリエンテーション時に担任教員より説明している。
- ②学生には直接周知している一方、保護者に向けた周知については、5月に開催予定の後援会総会がコロナ禍により中止となり、確認の必要がある。

○今後の改善方策

- ・教育理念並びに教育目標を募集イベントの段階から学生・保護者等多くの方々に周知していく。
- ・教育課程編成委員会を通じて、社会ニーズを取り入れたカリキュラム改編を検討する。

○評価委員より

- ・特に問題ありません。

（2）教育活動

○成果と課題

- ①シラバスを作成し、年度当初に学生へ配布、科目の目的・内容・評価方法等説明をしている。
- ②学習時間や到達目標は、学生便覧によって明確になっている。
- ③教育課程編成委員会で得た意見を授業運営に反映している。
- ④スキルアップとして、一部でeラーニング教材やオンデマンド教材を導入している。
- ⑤前・後期末に学校アンケート、授業アンケートを実施、今後の授業運営に活かしている。
- ⑥人材育成目標に向けた授業を行うことができる講師は確保されているが、一人の教員が多岐の授業を担当するなど偏りが出ているところもある。
- ⑦指導力向上に関しては、非常勤講師に対し未だ不十分。
- ⑧習熟度に乏しい学生について学科毎に補習を行うなど対応しているがフォローが不十分。

○今後の改善方策

- ・教員の指導力向上のために、非常勤講師も含めた全教員の研修の実現。
- ・「学力多様化への対応」として、特に低学力層の底上げをはかる全校的な仕組みの構築。

○評価委員より

- ・対面／オンライン授業の選択は学生側ができるのか
（学校側回答）オンライン授業はあくまでもコロナ感染予防としての措置であり、学生の希望選択ではない。

（3）教育成果

○成果と課題

- ①就職に関しては、個別指導を丁寧に行い、就職率100%を目指している。
- ②退学率に関しては、令和2年度の5.8%から令和3年度は8.0%と増加した。留学生の退学が増加。
- ③資格取得向上への施策は行っているが、特に下位者に対する指導が不十分。
- ④卒業生については十分に情報が把握できていない。

○今後の改善方策

- ・進路変更や学習意欲低下による退学者を減らすため入学前から丁寧な説明を行い、ミスマッチを防ぐ。
- ・退学率抑制のため、出席不良者の早期対応と改善に向けた仕組みを構築する。

○評価委員より

- ・資格取得において、特にオンライン授業だと個々の把握がしづらいのが弱いところですね。
- ・オンライン授業で友人同士教えあうことが難しいことや、自宅での授業参加が続き孤立感を感じてしまうことも要因。
- ・欠席者の早期把握について、新年度よりチェックシステムを強化。

(4) 学生支援

○成果と課題

- ①学生の進路指導に関しては、就職担当を中心に全教職員で指導に当たった結果、令和3年度は、就職内定率は99.5%、専門分野内定率は76.1%となった。
- ②悩んでいる学生・不安に感じている学生に対して、メンタルヘルスに関しては学校カウンセラーによるカウンセリングを週1回（予約制）実施している。
- ③学生の経済的側面に対する支援体制では、日本学生支援機構奨学金と法人独自の学費サポートプランにより整備されている。また、高等教育の修学支援金制度対象校となっている。
- ④職員室内に保健室があり、ベッドが2つ用意されているが、利用しづらいとの意見がある。
- ⑤成績や出欠席が悪い学生については、担任から保護者に電話連絡を行い、必要に応じて保護者面談を行うことで、学生の休学・退学を防止するよう活動している。
- ⑥卒業生への支援体制は十分とは言えない。相談に来校する卒業生については、その都度対応している。
- ⑦コロナ禍に対応しオンラインでの就職活動支援を増やしている。
- ⑧コロナの影響で地域行事等の中止が相次ぎ、ボランティア活動を縮小せざるを得なかった。
- ⑨社会人を対象とした講座などの教育プログラムは実施されていない。

○今後の改善方策

- ・同窓会組織を中心とした卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。
- ・卒業生に対し、SNS等を利用して支援体制を強化したい。
- ・コロナからポストコロナを見据えた就職支援体制の再構築。
- ・社会人に向けた教育プログラムの開発に向けた調査・検討。

○評価委員より

- ・同窓会の活性化など、卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。
- ・特に経済的支援に関して、修学支援金の認定校になっていることは、高校での進路指導上大きな判断基準となっている。

(5) 教育環境

○成果と課題

- ①普通教室はクラス担任、実習室には管理担当を置き、施設設備の管理体制は整っている。
- ②コロナ感染予防のため、許可制とするなど学生の利用を一定程度抑制した。
- ③実習機器は充実しているが、経年劣化や故障が出始めている。
- ④学生の増加に伴い、教室数や面積に余裕がない。

⑤研修旅行はコロナの影響によりすべて中止となったが、必要な学外研修やインターンシップ等は感染対策の上実施した。

○今後の改善方策

- ・学生の増加とコロナ対応を見据えた、教室・実習室の整備運営が必要。
- ・今後、施設設備の経年劣化にともなうメンテナンスが必要。
- ・学科により研修旅行の必要性について検討すべき。

○評価委員より

- ・学校でのクラスターもなく、コロナ感染状況を最小限に抑える努力をされていますね。

(6) 学生の募集と受け入れ

○成果と課題

- ①教職員の人事制度については法人で制度化されており、教職員の評価に関しては、目標管理制度が運用されている。説明やフィードバックが少なくわかりにくいという意見もある。
- ②学校間の連携は、所属長会議、校長ミーティング、分科会が中心となり活動している。
- ③非常時の危機管理については、法人全体での危機管理規程に規定されている他、ANPICシステムを使用して安否情報管理が行われている。
- ④コロナ禍により、クラス単位で避難経路の確認はしているが、防災訓練は縮小された。
- ⑤学校長より運営方針が示され、学校長の実施計画シートを基本として目的・目標を立てている。
- ⑥理事長の予算編成方針、中期計画に沿った運営方針に基づき事業計画を策定している。
- ⑦情報システムに関しては、学務、会計、人事等の基幹システムが法人全体で構築されており、情報セキュリティについては、情報セキュリティ基本方針に基づき管理・運用されている。
- ⑧法人本部のホームページで収支報告が公開されている。現在、財務基盤は安定している。
- ⑨次年度の事業計画を策定し、収支を勘案した予算が編成されており、法人内の予算ヒアリングを経て、理事会・評議員会の承認を得ており妥当である。
- ⑩会計監査については、法人に対して年1回、各所属に対して2年に1回実施している。監事監査については、年2回実施している。
- ⑪個人情報の取り扱いについては、学生便覧に明記されている。また、広報活動に用いられる写真、個人名等については、個別で承諾を取っている。
- ⑫毎年、自己評価委員会による自己点検・自己評価を行い、対応すべき事項などを共有化している。
- ⑬関係者評価委員会を5月下旬までに実施し、6月中にはホームページへの公開を行っている。
- ⑭学内にハラスメント委員会を設け学生、教職員からのハラスメント投稿BOXを設置し受けとれる仕組みを設け、防止を図っている。

○今後の改善方策

- ・入学定員を超過している学科については、今後改善を目指す。
- ・学内における分掌や会議体、意思決定機能の再検討。
- ・個人情報に関する教職員の意識統一。
- ・総合防災訓練の実施。。

○評価委員より

- ・十分な成果かと思います。

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

○成果と課題

学校運営、学校経営に関する諸制度、諸施策は、法人の整備の下、学校としての運用も十分に行ってきており、リスク管理、コンプライアンスの面からも適正に運営がなされていると言える。各項目の詳細は以下の通り。

- ①教職員の人事制度については、法人で制度化されており、教職員の評価に関しては、目標管理制度が運用されている。
- ②学校間の連携は、所属長会議、校長ミーティング、分科会が中心となり活動している。
- ③非常時の危機管理については、法人全体での危機管理規程に規定されている他、ANPICシステムを使用して安否情報管理が行われている。
- ④学校では消防計画に則り、年に1回、避難経路の確認、防災総合訓練を実施している。
- ⑤学校長より運営方針が示され、学校長の実施計画シートを基本として目的・目標を立てている。
- ⑥理事長の予算編成方針、中期計画に沿った運営方針に基づき事業計画を策定している。
- ⑦組織運営については、学校内では職員会議、運営会議、教務会議が実施されている。
- ⑧人事、給与等の規程が整備されている。
- ⑨教務については、教務規程に基づき教育計画の策定を実施している。
- ⑩ホームページ、学校案内、SNSに教育活動や成果を掲載し公開している。
- ⑪情報システムに関しては、学務、会計、人事等の基幹システムが法人全体で構築されており、情報セキュリティについては、情報セキュリティ基本方針に基づき管理・運用されている。
- ⑫法人本部のホームページで収支報告が公開されている。現在、財務基盤は安定している。
- ⑬次年度の事業計画を策定し、収支を勘案した予算が編成されており、法人内の予算ヒアリングを経て、理事会・評議員会の承認を得ており妥当である。
- ⑭会計監査については、法人に対して年1回、各所属に対して2年に1回実施している。監事監査については、年2回実施している。
- ⑮法人のホームページに、財務情報については公開している。
- ⑯専修学校設置基準に遵守し適正な運営を行っているが、入学定員の超過がある。
- ⑰個人情報の取り扱いについては、学生便覧に明記されている。また、広報活動に用いる写真、個人名等については、個別で承諾を取っている。
- ⑱自己評価については、毎年、自己評価委員会により実施されており、学校全体として取り組むべき事項や各科で対応すべき事項などを共有するとともに、重点化を図っている。
- ⑲関係者評価委員会を5月下旬までに実施し、6月中にはホームページへの公開を行っている
- ⑳学内にハラスメント委員会を設け学生、教職員からのハラスメント投稿BOXを設置し受けとれる仕組みを設け、防止を図っている

○今後の改善方策

- ・入学定員超過については、検討し改善を目指す。
- ・学内における分掌や会議体、意思決定機能の再検討。

○評価委員より

- ・コロナ禍により総合防災訓練が2年間できていないが、今秋の実施に向けて計画中です。
- ・組織としてしっかり運営されています。

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

○成果と課題

- ①令和3年度は、こいのぼりフェスティバル、子育てサロンなどの施設貸し出しやボランティア活動、公開講座や商店街との地域連携が、コロナの影響で縮小中止を余儀なくされた。

②高校生向け講座や地元小学校への教育支援を実施した。

○今後の改善方策

- ・アフターコロナも見据えた新しい地域連携のかたちを模索する必要がある。

○評価委員より

- ・コロナの影響でこの一年も大変な状況だったと思います。
- ・新たに地元小学校への教育支援ができたことは良かった。

6. 意見交換等

- ・（卒業生ではなく）自社の若手社員の話であるが、本人の成長を思っただけで厳しく叱るとすぐ心が折れてしまう。いまの若者のメンタルの弱さを心配している。
- ・静岡県ものづくり大会の審査員を担当していたが、ここ数年の貴校CGデザイン科学生のレベルアップには目を見張るものがある。実力が着実に増しているので引き続き頑張ってもらいたい。
- ・この2年間、コロナ禍のために初めは「やらざるを得ない状況」でオンライン授業を実施していたが、やっていく中で「授業は必ず対面でやるべきもの」という固定観念から解放され、真に効果のある教育方法は何かを模索するようになったのは大きな進歩だと考えている。

以 上